

市交際費の支出状況



令和6年2月分

支出種別	区分	件数	金額(円)
弔慰	今月分	2	10,000
	累計	68	251,500
見舞い	今月分	0	0
	累計	0	0
御祝	今月分	0	0
	累計	25	128,000
賛助	今月分	0	0
	累計	1	6,100
激励金	今月分	0	0
	累計	0	0
接遇	今月分	0	0
	累計	46	116,612
会費	今月分	1	2,000
	累計	32	128,000
その他	今月分	0	0
	累計	0	0
合計	今月分	3	12,000
	累計	172	630,212

※くわしくは市ホームページに掲載しています

問い合わせ

総務課 秘書係

☎0952-75-2115

「支え合いとともに生きる」
 コロナ禍も落ち着き、地域では会合や催しが行われるようになり、出前講座の機会も増えてきました。「人権」というと「何か難しい話」と思われがちですが「相手を想う気持ちを大切にすること」そして「自分の気持ちも大切にすること」を中心に据えて話をしています。さまざまな意見をいただきながら過ごす時間は、私にとっても学びの場となっています。

ある老人クラブの例会にお邪魔した時のことです。開会の30分前には、もうすでに会場は整えられていました。それでも、例会が始まる直前までみんながそれぞれに、自分にできること

tomon i kiru

をされていきました。お茶を出す人、資料を配る人、中でも印象深かったのは、まだ会場に姿が見えないAさんに気づいた人が、迎えに行かれたことです。そこには、優しさと助け合いの気持ちがあふれていました。雰囲気は、周りにも伝わります。参加されていたみなさんは、その後も終始笑顔で過ごされていました。

近年、近所にどんな人が住んでいるのか知らないなど、人と人とのつながりが薄れつつあります。人との関わり方が変化している時代だからこそ、今を生きる私たちが、相手の気持ちに寄り添うことを忘れず、認め合い、支え合うことが大切です。老人クラブ会員のみなさんの行動は、まさに「ともに生きる」そのものでした。

社会教育指導員 野中久美子

Message for citizen

市長コラム



市長コラム



多久聖廟は1708年に多久領4代領主多久茂文公の志で創建され、それに先立つ9年前の1699年には学問所が設けられています。その後、東原摩舎となり、武士のみならず百姓町人も、学ぶ志あれば入門できる学舎で人材を輩出しました。

その一人が「肥前の炭鋺王」高取伊好翁です。翁は1924(大正13)年に当時貴重な図書館を多久村に寄贈されました。

伊好翁が慶應義塾時代や事業経営時代に出会った人物に三菱財閥幹部の庄田平五郎氏がおられます。同氏は郷里の白杵に図書館を寄贈されています。敬愛する先輩の徳行実践と実物の図書館を見て、高取翁は郷里多久への図書館寄贈を発意されたことが日記に記されています。

今は存在しませんが、西溪公園に佇んでいた図書館は洋館風の瀟洒で美しい建物でした。高取翁寄贈の図書館に通い、

2つの百周年記念事業

市長 横尾 俊彦

3月26日 記

書籍を読み、歴史を学ぶ人の中に作家の滝口康彦氏がおられます。多久在住で、6度の直木賞候補になりました。歴史書にある小さな史実に着想のヒントを求められたのでしょうか。歴史の荒波の中、懸命に生き、家族を養い、武士の体面も保ちつつ、難題に応じる侍。そこに息づく喜怒哀楽や人としての生きざま、理不尽さにも闘いながら努め抜く歲月。その人間模様を時代小説に映した作品が光ります。

奇しくも重なった図書館創立(3/28)と滝口康彦生誕(3/13)という2つの百周年記念。滝口作品の『異聞浪人記』が原作の映画「切腹」上映会と主演の仲代達矢氏トークが叶いました。語りの中で「役者という真剣勝負の日々」という仲代氏の含蓄ある言葉が印象深く、執筆に没頭された滝口先生の奮闘を讃えるように響きました。

桜花爛漫の春を祈ります。